

4. 活動報告

本プロジェクトの円滑な執行、進捗管理、および外部有識者による客観的な評価・助言を得るため、以下の通り運営体制を整備し、各種会議および広報・アウトリーチ活動を実施した。なお、学会発表等の詳細な一覧については、本報告書別添「学会等発表実績」に集約して記載している。

(1) 推進体制の整備

プロジェクトの進捗監督および専門的助言を得るため、外部有識者による「推進委員会」を設置するとともに、特定の専門領域や社会的出口戦略について助言を行う「アドバイザー」を配置した。

【推進委員会 委員】（敬称略）

- ・ 委員長：矢守 克也（京都大学 教授）
- ・ 委員：西村 卓也（京都大学 教授）
- ・ 委員：高橋 浩晃（北海道大学 教授）
- ・ 委員：菅野 智之（気象庁）
- ・ 委員：五十嵐 洋輔（内閣府）
- ・ 委員：能島 暢呂（岐阜大学 教授）
- ・ 委員：坂東 淳（徳島県労働委員会事務局）

【アドバイザー】（敬称略）

- ・ 金田 義行（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長）：課題 1 の出口と課題 1 と課題 2 の連携について
- ・ 福和 伸夫（名古屋大学 名誉教授）：課題 1 の出口（政策委員会関係）や防災庁準備との関係について
- ・ 小原 一成（防災科学技術研究所 フェロー）：課題 1 の出口（気象庁検討会関係）について
- ・ 臼田 裕一郎（防災科学技術研究所 社会防災研究領域長）：課題 1 と課題 2 の連携について
- ・ 高橋 智幸（関西大学 教授）：課題 2 の出口について
- ・ 鷺谷 威（名古屋大学 教授）：課題 1 の理学的妥当性・高度化について

(2) 会議の開催実績

① 推進委員会の開催

- ・ 令和 7 年度 第 1 回 推進委員会
 - 日時：令和 7 年 11 月 25 日（火）13:00～16:30
 - 形式：オンライン
 - 議事次第：
 1. 【開会挨拶】文部科学省、矢守委員長、堀プロジェクト代表
 2. 【推進委員自己紹介】
 3. 【全体概要紹介】堀プロジェクト代表
 4. 【第一部 プロジェクト紹介】

- 課題1「南海トラフ地震の評価手法高度化と他地域への展開研究」（堀氏、汐見氏、太田氏、今井氏）
 - 課題2「連鎖複合災害に備える地域防災力強化研究」（藤原氏、中村氏、高橋（成）氏）
- 5. 【第二部 総合討論と総評】
- 6. 【閉会挨拶】矢守委員長
- 令和7年度 第2回 推進委員会
 - 日時：令和8年1月15日（木）16:45～17:45
 - 形式：ハイブリッド（対面：イイノホール、およびオンライン）
 - 議事次第：
 1. 【開会挨拶】文部科学省
 2. 【推進委員会委員長挨拶】矢守委員長
 3. 【前回委員会の質疑を受けての方針/質疑】第1回での指摘（網羅性と焦点化、実務的実装等）への回答
 4. 【総合討論】各委員からの追加意見・確認
 5. 【総括】矢守委員長
 6. 【閉会の挨拶】堀プロジェクト代表

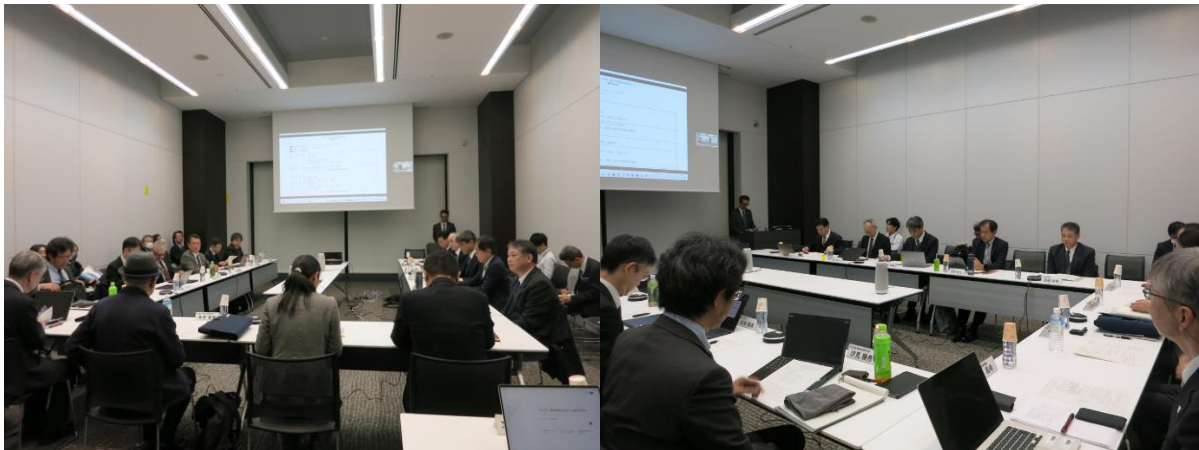


写真3－1 第2回推進委員会の様子。

② 全体会議の開催

- 令和7年度 第1回 全体会議
 - 日時：令和7年8月29日（金）13:00～15:30
 - 議事次第：堀代表挨拶、全体及び各課題（1、2）、サブ課題（1a、1b、1c、2a、2b）の紹介、総合討論。
- 令和7年度 第2回 全体会議
 - 日時：令和7年11月21日（金）13:00～15:00
 - 議事次第：開会挨拶、課題1および課題2の各サブ課題代表による具体的実施状況報告と確認事項の検討。

(3) 広報・アウトリーチ活動

① キックオフシンポジウム（NanTR プロジェクト始動）

- 開催日・場所：令和 8 年 1 月 15 日、東京・イイノホール&カンファレンスセンター
- 内容詳細：プロジェクトの本格始動を記念したキックオフシンポジウムを開催した。行政、研究機関、民間企業、そして市民の方々など、定員を上回る 165 名が来場し、本プロジェクトに対する関心の高さがうかがえる盛況な会となった。
第一部では、プロジェクトの全体構想とともに、南海トラフ地震の評価手法高度化を目指す「課題 1」、および連鎖複合災害に備える地域防災力強化を担う「課題 2」の各サブ課題について、担当者より最新の研究計画を詳しく紹介した。
第二部のパネルディスカッションでは、外部有識者による推進委員の方々をパネリストに迎え、課題代表者とともに議論を深めた。「理学・工学・社会科学の連携」や「研究成果の迅速な社会実装」をテーマに、多様な専門的知見をいかにして地域の安心・安全に繋げていくか、今後のプロジェクトの指針となる貴重な意見交換が行われた。
- 事後アンケートでは、回答者の約 9 割から「内容が理解しやすかった」との評価があったほか、「自治体との連携モデル構築」や「分野横断的な検討」に多くの期待が寄せられた。



写真 3-2 キックオフシンポジウムの様子。

NanTR プロジェクト始動

— 文部科学省科学技術試験研究委託事業 —

南海トラフ地震等巨大地震災害の被害最小化
及び迅速な復旧・復興に資する
地震防災研究プロジェクト
キックオフシンポジウム

2025 年 8 月に始動した本プロジェクトは、理工学と社会科学の協働による
調査研究を通じて、巨大地震による広域連鎖災害への脆弱性を軽減させ、
被害の最小化、迅速な復旧・復興への貢献を目指します。
本シンポジウムでは、プロジェクトの構想と研究の方向性を紹介し、
地域防災の推進に向けたパネル討論を行います。

参加費無料
入場無料

令和 8 年 **1/15(木)** 13:00-16:25 イイノホール & カンファレンスセンター
〒120-0011 東京都平野区平野 3-2-1 新野ビルディング4階

参加申込：下記 URL または QR コードよりお申し込みください
<https://www.jamstec.go.jp/nant/sympo20260115.html>

プログラム

13:00-13:15 開会挨拶
文部科学省
13:05-13:15 全体概観紹介
高橋 孝雄（文部科学省科学技術政策課、プロジェクト代表）

第一部 プロジェクト紹介
13:15-14:40
南海トラフ地震の評価手法高度化と他地域への展開研究
高橋 孝雄（文部科学省科学技術政策課、プロジェクト代表）
時空解析データを用いた地震活動モニタリング
片岡 孝典（防災科学技術研究所、ナレッジ・イノベーション）
陸域地質データを用いたプレート境界のリアルタイムモニタリング・推移評価
矢野 康博（防災科学技術研究所、ナレッジ・イノベーション）
地震履歴情報に基づく南海トラフ巨大地震の発生シナリオ構築
今井 健太郎（防災科学技術研究所、ナレッジ・イノベーション）

第二部 パネルディスカッション
14:40-15:00 休憩
15:00-15:20
連鎖複合災害に備える地域防災力強化研究
高橋 孝雄（文部科学省科学技術政策課、プロジェクト代表）
連鎖複合災害リスク評価手法の構築
中野 正典（防災科学技術研究所、ナレッジ・イノベーション）
地域防災計画への貢献を見据えた地域防災力向上研究
高橋 孝雄（文部科学省科学技術政策課、プロジェクト代表）

15:20-15:40 閉会挨拶
高橋 孝雄（文部科学省科学技術政策課、プロジェクト代表）

パネリスト：片岡 孝典（防災科学技術研究所）、高橋 孝雄（文部科学省科学技術政策課）、中野 正典（防災科学技術研究所）、矢野 康博（防災科学技術研究所）、今井 健太郎（防災科学技術研究所）
司会：高橋 孝雄（文部科学省科学技術政策課、プロジェクト代表）

※ 南海トラフ地震等巨大地震災害の被害最小化及び迅速な復旧・復興に資する地震防災研究プロジェクトの推進を目的として、本シンポジウムを開催いたします。参加費は無料です。お問い合わせ先：文部科学省科学技術政策課（〒120-0011 東京都平野区平野 3-2-1 新野ビルディング4階）
E-mail: nantr@jamstec.go.jp

写真 3-3 キックオフシンポジウムのプログラム。

② 地域連携シンポジウム（南海トラフ地震・津波シンポジウム）

- 開催日・場所：令和 8 年 2 月 28 日、コンベンションぬまづ（沼津市）およびオンライン配信
- 内容詳細：静岡県立大学グローバル地域センターと共催。参加者 134 名。静岡県に特化した「静岡オリジナル」の地震活動監視技術や早期津波予測について、堀高峰プロジェクト代表、高橋成実サブ課題代表らが登壇し解説。パネルディスカッションでは「静岡発の技術に期待すること」をテーマに地域住民・実務者と直接対話を行った。

③ その他広報活動

- Web サイト・寄稿：プロジェクト公式サイトを構築・運用。令和 8 年 3 月には地震調査研究推進本部（地震本部）ニュースへ、プロジェクトの始動と臨時情報への貢献をテーマとした記事を寄稿した。



写真 3－4 プロジェクト公式サイト。